

交渉速報

J R 貨物労組中央本部業務部

2018年3月6日

No.11

組合：組合員の苦勞に報いるため、経営陣は英断するべきである。

会社：雪害等で収入減の状況が続き、計画未達である。厳しい状況である。

～ 第3回 2018JR総連春闘交渉報告 ～

中央本部は本日15時00分より第3回交渉を行い、今次春闘における「要求の根拠」について主張しました。「要求の根拠」は以下の通りです。

- (1) 会社が発足して30年が経過したが、18年連続のベアゼロの状況となっている。この18年間で、物価は上昇しているが、この18年間で賃金体系も変わっていない、生活向上は進んでいない。
- (2) 会社にとってのベースアップとは何なのか。私たちは「物価上昇分」「生活向上分」としてベースアップを要求していることを改めて主張する。
- (3) 年末手当の交渉時に、職場の組合員と経営陣の間には大きな乖離があること認識したはずであり、この乖離を埋めていく努力をすることを確認したが、まだまだ、認識の乖離が大きい。職場では収入拡大に向けて奮闘しているが、輪転資材の確保が出来ていない。本当に収入拡大に向けて奮闘しているのか、甚だ疑問を感じる。
- (4) 18年連続ベアゼロで、初任給も上がっていない状況となっている。新規採用を募集したが、定員を満たすことが出来なかった。各企業がこぞって人材確保を進めている中で、選ばれる企業となっていないということを意味している。選択される企業となるためにも賃金引き上げは大きな要素になる。
- (5) 申し入れの時に組合は「不退職の決意」ということを主張しました。会社はどのように認識しているのか。
- (6) 今春闘は「ベアを取りに行く決意」である。会社は計画未達の状況であることを主張するが、計画は会社が立てたものであり、収入未達の責任を組合員に押し付けることは絶対に認めない。経営陣は英断をするべきである。

我々の要求根拠に対して会社は、「貨物労組の要求根拠や春闘に臨む姿勢については会社として認識している」とし、以下のように回答しました。

- 【1】 2月末でコンテナ輸送は対計画94.5%、△5.2億円である。一方、車扱いは対計画100.7%、プラス900万であるが、雪害が続き、8.2億円の減収となっている。
- 【2】 18年連続ベアゼロとなっているが、定期昇給は確保している。また、昨年、一昨年と2年間にわたり、社員に対して1号俸を加算した。
実質のベースアップではないが給与の上昇はしている。
- 【3】 現時点、事業計画を策定しているが、今年度の実績が発射台となり、計画値を立てようとしている。したがって今年度よりも厳しく計画を立てようとしている。
- 【4】 諸要求も81項目が申し入れされている。貨物労組の今春闘に対する意気込みは違うことは認識している。
- 【5】 第4回目交渉で会社の考え方を言わせてもらうが、現時点では収入計画が未達となることが想定されている。したがって厳しい状況と言わざるを得ない。

会社の回答に対し中央本部は、以下の内容で指摘しました。

- ① 鉄道事業部門の黒字化を継続しようとしているが、本当に収入拡大を目指しているのか甚だ疑問を感じる。特に輪転資材や要員不足の状況であり、経営陣は計画未達の責任を組合員におしつけようとしているのではないか。このような姿勢は絶対に許すことが出来ない。
- ② 若者が夢と希望をもって入社してきているが、若年退職が続いている。ここで歯止めをかけないと、技術継承が滞る。安全問題にも直結する。
- ③ 2年間で1号俸を加算してきたが、一律に仕切ったものではない。あくまでもベースアップは「生活向上分」「物価上昇分」である。したがって、ベースを上げるということが絶対に必要だということ。また、現在、事業計画を策定しているが、今年度の実績を発射台として黒字の計画をつくるのならば、組合員の犠牲を強いることは絶対に認めない。
- ④ 会社は目標であった、鉄道事業部門の黒字化を達成したが、組合員は18年連続ベアゼロであり、生活は逼迫している。会社は状況を理解しているというが、職場で汗している組合員にたいして本当に報いる気があるのか疑問である。
- ⑤ 今春闘は「ベースアップを取りに行く」ということである。したがって回答指定日に会社は英断をし、しっかりと組合員の声に耳を傾け、この間の労に報いる回答を示すべきである。

本日の議論を真摯に受け止め、ベースアップの実施を含めた回答を示すことを通告し、第3回交渉を終えました。

組合員のみなさん！会社は計画未達を理由にして、現時点でベアは厳しいということと言わざるを得ないとして、この間の私たちが奮闘してきた結果をないがしろにしようとしています。

この成果は私たちが奮闘してきたからに他なりません。この重みを会社経営陣に受け止めさせ、経営姿勢をただすために、全組合員が一丸となって職場から創造した闘いをつくりだしていかななくてはなりません。

本日の第3回交渉以降、闘争ゾーンに入ります。ベア獲得・諸要求の実現に向けて、それぞれの職場から切実な「声」をこれからの闘いに結集させましょう。中央本部は、その最先頭で奮闘していくことを申し上げ第3回交渉報告とします。

以 上

次回、第4回交渉は3月9日（金）です。